

平成 28 年度
事業評価に関する意見書

平成 28 年 12 月 1 日

泉区地域協議会

目 次

1	平成 28 年度事業評価について	1
	(1) 評価対象事業及びグループ編成	
	(2) 評価項目	
	(3) 評価方法	
	(4) 事業評価に関する意見書作成の考え方	
	(5) スケジュール	
2	平成 28 年度事業評価に関する意見書	
	(1) 魅力発見・発信	3
	(2) 防犯灯の自治会・町内会から横浜市への移管	6
	(3) 待機児童対策	8

1 平成 28 年度事業評価について

(1) 評価対象事業及びグループ編成

◎はグループリーダー

グループ	対象事業	地 区	氏 名
A	魅力発見・発信	緑園	横川 満
		新橋	立平 チエ子
		和泉中央	松浦 紀明
		下和泉	小森谷 克己
		富士見が丘	八木 勇喜
		上飯田	◎ 馬場 勝己
		上飯田団地	佐野 瞳
		いちよう団地	八木 幸雄
B	防犯灯の自治会・町内会から 横浜市への移管	中川	◎ 小泉 正彦
		緑園	長谷川 幹夫
		新橋	藤野 美知子
		和泉北部	成澤 誠
		富士見が丘	小林 俊彦
		上飯田	本間 賢二
		中田	佐々木 弘美
		しらゆり	衛藤 隆知
C	待機児童対策	中川	北原 勉
		和泉北部	◎ 稗田 茂麿
		和泉中央	村山 節子
		下和泉	谷村 勝彦
		上飯田団地	鈴木 なをみ
		いちよう団地	簗島 康明
		中田	飯島 猛旦
		しらゆり	馬場 知和

(2) 評価項目

- ア 事業の必要性
- イ 事業の進め方
- ウ 事業の達成度
- エ 事業の投資効果
- オ 事業の成果
- カ 事業の将来性

(3) 評価方法

- ア 聴き取り（ヒアリング）による調査
- イ 資料による調査

(4) 意見書の構成

事業評価に関する意見書は、事業概要、主な事業構成のほか、総合評価及び提言・提案について記載しました。

(5) スケジュール

評価関連の作業は、次の日程で実施しました。

日程	会議種別	内容
9月15日（木）18:30～	定例会	今年度の事業評価の進め方、対象事業の決定
9月29日（木）18:00～	部会	対象事業ヒアリング
10月27日（木）18:00～	部会	グループ検討
11月10日（木）18:00～	部会	意見書まとめに向けたグループ検討、全体共有
12月1日（木）18:00～	部会	事業評価に関する意見書のとりまとめ
12月1日（木）18:30～	定例会	事業評価に関する意見書の提出

1 魅力発見・発信 【区政推進課・地域振興課】

【事業概要】

○泉区魅力発見・発信事業【泉区自主企画事業・文化観光局区配事業】

区の地域資源である、水・緑や史跡・歴史、多様な区民活動などをより多くの区民に知ってもらい、体験・探訪してもらうとともに、地域に関心と愛着を持ってもらうことを目的とした取組を実施

【平成 28 年度予算額（平成 27 年度決算額）】

○泉区自主企画事業 3,611 千円（ 3,843 千円）

○文化観光局区配事業 1,000 千円（ 700 千円）

【主な事業構成】

○スマートイルミネーションいずみ【文化観光局区配あり】

省エネルギー技術とアートを融合させたイベントを平成 26 年度から実施

① 区内小学生等が作成した「ひかりの実」の展示

② アートプログラムの実施

○写真で綴る泉区

区制 30 周年の機会に区民から泉区の昔の写真を募集し、区民ホールでの展示やホームページで公開（応募 16 人、382 点）

○つるし飾り展の開催

子どもの成長を願うつるし飾りを区民が手作りして区民ホールに展示

同時期に区内各地でも実施する展示と合わせて泉区のつるし飾り文化を盛り上げ

○散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」の改訂発行 【区制 30 周年記念事業】

泉区の様々な魅力・地域資源を歩きながら体験していただくため、泉区散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」の改訂版を発行

【総合評価】

区民に泉区の魅力を知ってもらい、地域に関心と愛着を持ってもらうことは、住みよい泉区をつくっていくうえで非常に重要であり、区役所は魅力発見・発信に、率先して取り組んでいくべきであると考えている。現在の取組は、様々な工夫も凝らされており、概ね評価できる。

中核的事業であるスマートイルミネーションいずみは、泉区ならではの魅力を活かしつつ、区民の環境行動の意識向上も促すものであり、今後、泉区を代表する取組として認知度の向上を一層図りながら、長期的視点に立って発展・継続させていくことが重要である。

魅力発見・発信の手段としては様々なものが考えられる。取組の目的をはっきりさせ、手段として有効なものとなっているか不断なき検証を行いながら実施していくことが必要である。

【提言・提案】

1 スマートイルミネーションいずみ

(1) 認知度の向上、実施場所の新たな開拓、来場者の広がり等に向けた対策

素晴らしい取組であるが、認知度が必ずしも高くない。区民に泉区の魅力を知ってもらい地域に関心と愛着を持ってもらうためには、より多くの区民に見てもらうことが重要。実際に見てもらうことで取組の良さが伝わるので、多くの人の目につくように実施場所を増やしていくことが必要。実施場所を現在の2か所から増やすことが予算上難しい場合は地蔵原の1か所は固定し、他の1か所を順番に変えていくことも考えられる。

ひかりの実を作った小学生や親が来場するなど、認知度の向上に大きく寄与するので、ひかりの実の作成を依頼する小学校を増やしたり、増やすことが予算上難しい場合は順番に変えていくことも考えられる。

また、通りすがりに見てもらえるよう、例えば地蔵原であれば、公会堂やテアトルフォンテに各地から人が多く集まるイベント等と日程を重ねて実施していくことも考えられる。

広報についても、より多くの人の目に留まるような工夫が必要。

(2) 区民の環境行動の意識向上に向けた対策

子どもたちにひかりの実を作ってもらう際は、ただ楽しいということではなく、例えば、併せて作文を書いてもらうなど、環境行動の意識向上につながる取組を併せて行っていくことが必要。

イベントの中でも、省エネ・環境行動の実践活動の紹介など、環境行動の意識向上につながる取組を併せて行っていくことが必要。

2 写真で綴る泉区

(1) 今後の写真の活用法

集まった写真をHPで公開しているとのことだが、高齢者を中心にHPを見ることができない人も多い。パネルや写真のスライドは非常によくできており、地域に貸し出したり、機会を捉えて展示・上映していくことが考えられる。

(2) 動画での魅力発信など若者向け取組の実施

写真の応募者が少ないと感じる。若者は動画の方により興味があり、泉区の魅力発見を動画で募集し、コンテストを実施すると若者を巻き込んで盛り上げていくことができるのではないかと。泉区の区名は、「泉が湧き出るように若い力を生み出しながら発展するよとの願いを込めて名付けられた」（泉区小史）とのこと。地域のイベントなど、小中学生や子ども連れを意識した取組は多くあるが、その間の年齢層向けの取組は少ない。若者向けの取組を実施していくことが重要。

3 泉区つるし飾り展

(1) 地域での魅力ある取組の発見・発信

区役所のホールに並んでいるつるし飾りを見ると非常に華やか。地域には様々な魅力ある取組があるので、つるし飾りに限らず、地域での魅力ある取組を広く把握し、区民に発信していくことが重要。

4 散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」の改訂発行

(1) 散策ガイドの周知・活用・充実

区民に泉区の魅力を知ってもらい、地域に関心と愛着を持ってもらううえで、散策ガイドは有効なツールであり、今回の改訂版は非常によくできている。散策ガイドを発行して終わりではなく、小学校を始めとした様々な団体に活用を呼びかけたり、駅や道路に案内板を設置するなど、周知・活用に積極的に取り組んでいくことが重要。

様々な活用される中で、将来的に更に内容を充実させた改訂版の発行につなげていくことが考えられる。

5 その他全般

(1) 和泉川・村岡川・阿久和川での魅力づくり

泉区の重要な魅力の一つに川がある。川を活かした魅力づくりや魅力の紹介に取り組んでいくことも重要。

(2) 重点箇所でのイベント実施

区民に泉区の魅力を知ってもらい、地域に関心と愛着を持ってもらうために、区内でいくつかの重点箇所を決めてイベントを実施することが考えられる。

地蔵原にはスマートイルミネーションいずみがあり、本年、旧深谷通信所跡地で広場のオープン記念イベントが開催された。これらに加え、例えば、神明台処分地などでイベントを開催していくことが考えられる。

2 防犯灯の自治会・町内会から横浜市への移管 【地域振興課】

【事業概要】

○LED防犯灯整備事業【市民局事業】

平成21年度から、自治会・町内会で所有している蛍光灯などの防犯灯をLED防犯灯に更新することで、防犯環境の整備や所有・維持管理を横浜市が担うことによる自治会・町内会の負担軽減、温暖化対策の推進を目的として実施

平成26年度及び28年度に、大規模な更新をするため、ESCO事業を実施

【平成26年度決算額】

○電柱LED防犯灯ESCO事業 59,808千円【全市】

【平成28年度予算額】

○鋼管ポールLED防犯灯ESCO事業 43,450千円【全市】

【主な事業構成】

○電柱LED防犯灯ESCO事業（平成26年度）

自治会・町内会が所有する電柱共架防犯灯について、ESCO事業により、泉区では約6,100灯を交換・設置

○鋼管ポールLED防犯灯ESCO事業（平成28年度）

自治会・町内会が所有する鋼管ポール防犯灯について、ESCO事業により、泉区では約870灯を交換・設置予定

【総合評価】

防犯灯をLED化したことにより、まちが明るくなり、防犯上の効果が期待される。また、防犯灯の所有を自治会・町内会から市へ移管したことにより、故障等の見守りや連絡など、これからも地元で行うことはあるが、電気代などの支出や、補助金申請の手続き事務などが減少したことで、自治会・町内会の負担軽減につながっており、十分に評価できる。

LED防犯灯の寿命は長いですが、将来の交換時期の支出に向け、計画的に取り組んでいくことが重要である。

【提言・提案】

1 将来の交換に向けた資金計画

LED灯は寿命が15年程度ということだが、設置から15年たった時期に交換が集中することが考えられる。そのための費用について資金計画をきちんと立て、自治会・町内会に負担がかからないようにすることが求められる。

2 防犯灯についての情報提供

設置場所については、本当に暗い場所、危険な場所を選定できるように、自治会・町内会に防犯灯の目的や特徴などを十分に説明し、自治会・町内会の役員等の理解が得られるようにすることが求められる。

特に新任の自治会・町内会役員にも、防犯灯の役割など全体の仕組みがわかるよう、積極的な情報提供が望まれる。

3 防犯灯の新設・交換

他の自治会・町内会の場所であっても、必要な場所に設置検討ができるよう、区が相談に乗り、調整することが求められる。

鋼管ポールについて、古く劣化しているものを優先的に新しいものに交換することが望まれる。

新設の申請方法や時期など、自治会・町内会が簡単にいつでもできるような配慮が求められる。

4 防犯灯の修理等

地元で防犯灯の見守りを行い、故障等の連絡をする場合、HPや電子メールの活用など、より簡単な方法で連絡ができるようにすることが望まれる。

故障などの連絡をした際、その修理をできるだけ早く行うことが求められる。

3 待機児童対策 【こども家庭支援課】

【事業概要】

- 保育所整備事業等【こども青少年局事業】
- 保育施設・幼稚園等との協働による子育て支援推進事業【泉区自主企画事業】
- 新制度における保育・教育の実施等【こども青少年局区配事業】

児童の在籍数や入所申込状況を踏まえ、こども青少年局とともに対策を検討し、新たな保育施設を整備

また、認可保育所に集中するニーズの分散化を進めるため、保育施設・幼稚園等との協働により、多様な保育メニューの案内や保育コンシェルジュによるきめ細かなアフターフォローによる保育ニーズと保育施設のマッチングを実施

ハード、ソフトの両面から、待機児童ゼロへ向けた対策を展開

【平成 28 年度予算額（平成 27 年度決算額）】

- 保育所整備事業等 3,717,639 千円（4,081,232 千円）【全市】
- 保育施設・幼稚園等との協働による子育て支援推進事業 1,904 千円（1,826 千円）
- 新制度における保育・教育の実施等 103,554 千円（182,597 千円）

【主な事業構成】

○施設整備（最近 1 年間）

- H28. 2 月開所 泉の郷保育園 定員 72 名
- H28. 4 月開所 立場らびっと保育園 定員 19 名
- H28. 4 月開所 サクラフェリーチェ保育園 定員 19 名
- H28. 10 月開所 ともとものおうち（乳幼児一時預かり事業）定員 15 名
（H29. 4 月開所予定 ひまわり保育園 定員 19 名）

- 「いずみっこひろば」の開催、保育士等の人材発掘支援、保育所入所支援
- 保育コンシェルジュの配置

【総合評価】

泉区においては、平成 24 年度から待機児童はゼロとなっているが、保留児童数（※）は 28 年度では 60 人を数えている。就学前の児童数が少子化の影響で年々減少する傾向にある一方、保育施設に入園を希望する児童数は増加傾向にあるため、保留児童をゼロにすることは難しい状況にある。

このような社会現象を解消するためには、国及び地方自治体が格段の努力をする必要があるが、現在、こども家庭支援課においては保留児童を解消するため、所与の人員・予算を活用して適正に業務を執行しているものと評価する。今後とも引き続き、待機児童対策の積極的な取組を期待する。

※「保留児童」とは・・・保育施設に入園を希望し、入園できなかった児童

ここから、①現在横浜保育室に入所している、②一つの園（特定の保育園）のみ希望、③求職中、④紹介された保育サービスを断っている、⑤保護者が育児休業中を除外した人数が「待機児童」として数えられる。

【提言・提案】

1 保育施設の新設について

保留児童を解消するためには、当面保育施設の新設が不可欠であることから、関係者に対し保育施設の整備について協力を要請するとともに、整備にあたり保護者の利便性を考慮して交通の便利な場所を選定することが望ましい。

2 子育て世代が住みやすい環境づくり

昨年度、当地域協議会の課題検討「居住地として選ばれる泉区となるために」の中で、「子どもを預けやすい施設が充実し、地域による見守りや子育てのサポートがあることが重要」と提言しているように、ハード面とソフト面からの対策の充実が求められる。新規の大規模マンション建設にあたり、中期的観点から保育施設の整備について事業者と協議することが必要。

また、地域住民による子育て支援は、子育て世代が住みやすい環境づくりに有効であると考えられることから、地域住民による子育て支援の具体的取組について検討することが必要。

3 中長期的展望に立った対策

現在の保育施設の整備は、当面のニーズをもとに単年度での整備対応となっているが、施設整備を含め待機児童対策については、中長期的な展望のもとで検討していくことが必要。

4 保育士確保のための対策

保育の仕事は体力面、精神面双方において非常に厳しいものがあり、保育士確保のためには給与・処遇等基本的問題の改善が求められるが、この問題の早急な解決は難しいことから、現在取り組んでいる就労面接会、就労支援講座及び情報提供の充実を図ることが重要。